




九月一日は防災の日

もしも地震が起ったら……

<p>1 グラツきたら火の始末! ●小さな地震でも火を消そう</p> 	<p>2 あわてて外に飛び出すな! ●戸を開けて、まず出口を確保してから様子をみよう</p> 
<p>3 その場に合った身の安全! ●テーブル、机、ベッドなどの下に身をふせよ</p> 	<p>4 となり近所の助け合い! ●消火、避難、救助はお互いに協力しよう</p> 
<p>5 避難は徒歩で身軽にしよう! ●自動車、自転車は使用せず、持ち物は最少限度に</p> 	<p>6 屋外では頭を保護し、危険な場所に近よるな! ●窓ガラスや看板など落下物に注意して、ブロック塀、ガケ、川べりに近づくな</p> 
<p>7 海岸付近では、津波に注意! ●すばやく安全な場所へ避難する</p>	<p>8 デパート、劇場、地下街などでは、冷静な行動を! ●あわてて出口や階段に殺到せず、係員の指示に従おう</p>
<p>9 自動車は左に寄せて停車! ●避難の時はエンジンキーをつけたまま</p>	<p>10 デマにまどわされず、正しい情報で行動! ●テレビ、ラジオや防災機関からの情報に注意</p>

心構え怠りなく

災害はいつ襲ってくるか予測が付きません。地震を例にと、戦後の大地震は九回も発生し、そのたびに大きな痛手をことうむっています。命を守ることに難かしさを痛感させられますが、日頃からの準備だけは万全にしておきましょう。

いつかは来る大地震

地震の震度階は、現在、震度0(無感)から震度7(激震)までの8段階に分かれています。実際に大きな被害が出るのは、震度5(強震)からですが、東京でこの震度5以上の大地震が起きる可能性は、きわめて大きいといわれています。

「昭和四年の七月から昨年までの五十四年間、東京で震度5以上の地震は一度も起きていません。ここ四〇〇年、五〇〇年の統計を見ると、十数年に一度くらいの割合で震度5以上の地震に見舞われているわけです。

日本および世界のM5以上の地震の発生回数

規模	日本付近	全世界
M 8以上の地震の数	10年に約1回	1年に1~2回
M 7~8の "	1年に約1回	1年に約15回
M 6~7の "	1年に約10回	1年に約130回
M 5~6の "	1年に約100回	

戦後日本に起きた大地震

日付	震度	震源地	被害
1946.12.21 (昭和21)	M 8.1	南海地震	死者1,339人、全壊9,070、流失1,451、焼失2,598、大津波、紀伊南端6.6m、土地田畑15km ² 海没
1948.6.28 (昭和23)	M 7.2	福井地震	死亡3,895人、傷者16,375人、全壊35,420、焼失3,960、断層あり
1964.6.16 (昭和39)	M 7.5	新潟地震	家屋全壊1,960、地盤沈下、津波最高6m
1968.5.16 (昭和43)	M 7.9	十勝沖地震	死者49人、全壊家屋673、半壊家屋3,004、津波三陸沿岸4m
1974.5.9 (昭和49)	M 6.9	伊豆半島沖地震	死者不明29人、傷者78人、家屋全壊46、半壊125
1978.1.14 (昭和53)	M 7.0	伊豆大島近海地震	死者25人、傷者205人、家屋全壊96、半壊616
1978.6.12 (昭和53)	M 7.4	宮城県沖地震	死者28人、傷者11,028人、家屋全壊1,363、半壊6,067
1982.3.21 (昭和57)	M 7.3	浦河沖地震	死者なし、負傷者168人、家屋全壊12、半壊19
1983.5.26 (昭和58)	M 7.7	日本海中部地震	死者行方不明102人、負傷者109人、家屋全壊834、半壊1,625

学者によつては、明日にでも直下型大地震に襲われてもおかしくないと言う人もいるくらいで、相当の用心が必要です。日本全体でも、日本海中部地震級の地震(マグニチュード7・7)は、年に一回、マグニチュード6.7くらい地震だと、年に十回は起こると言われています。

大地震が、いつ起きてもおかしくないというのが、地震ニッポンの現実です。



安全な場所へ避難する児童 (昨年の防災訓練から)